

2021年度

事業報告

自 2021年4月 1日

至 2022年3月31日

公益財団法人日本財団ボランティアセンター

目 次

I. 法人の概況	1
II. 管理業務	2
1. 役員及び評議員	2
2. 学生委員	2
3. 会議	4
4. 規程の制定等	5
5. 届出・登記事項	5
6. 事務局	6
III. 事業の実施状況	
【公益目的事業】	
1. 大学等連携ボランティア関連講座	7
2. 学生ボランティア派遣	21
3. セミナー／シンポジウム	24
4. インターンプログラム	27
5. 教育活動支援	29
【その他センターの目的達成に必要な事業】	
1. 情報発信	29
2021年度事業報告 附属明細書	34

I. 法人の概況

1. 設立年月日 2015年3月11日

2016年12月15日付けで公益認定申請書を提出し、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成18年法律第49条）の規定に基づき、2017年6月1日に認定を受け、公益財団法人となった。

2. 定款に定める目的

この法人は、夢を描くことが最大の社会貢献となる若い学生の力を活かすため、学生ボランティア活動の支援を通じて、時代の一步先を目指す次世代を担う人材を育成するとともに、本邦及び海外の学生が行う公益活動への情報提供やサポートを行うことで、国内外の公益活動の活性化に寄与し、もって青少年の健全な育成と市民活動が日常となる、より良い社会の形成に資することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 学生ボランティア活動の支援
 - (2) 学生ボランティア活動を促進するための機会提供
 - (3) 学生ボランティア活動に関する情報の収集・発信
 - (4) 学生ボランティアのスキルアップ推進
 - (5) 学生ボランティアのネットワーク構築・運営
 - (6) 各種刊行物等の販売
 - (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 各号の事業は、本邦及び海外において行うものとする。

4. 所在地 東京都港区虎ノ門1-11-2（日本財団第二ビル）

5. 基本財産の額

取得価額	時価評価額	差異
3,000,000	3,000,000	0

6. 行政庁 内閣府

7. 役員に関する事項

II. 管理業務の1. 役員（理事・監事）及び評議員を参照

8. 職員に関する事項

II. 管理業務の6. 事務局を参照

II. 管理業務

1. 役員（理事・監事）及び評議員

(1) 役員

2022年3月31日現在の役員は、別表1「役員名簿」（30頁）のとおり、理事9名（会長1名、常務理事2名、理事6名）、監事2名である。

役員の異動は、赤澤清孝理事、小島祥美理事が任期途中で辞任した。

(2) 評議員

2022年3月31日現在の評議員は、別表2「評議員名簿」（31頁）のとおり、4名である。

2. 学生委員

第22回理事会で選任された学生委員は、別表3「学生委員名簿」（32頁）のとおり、10名である。

3. 会議

(1) 理事会

①第22回理事会

時 期：2021年6月3日(木)

方 法：ZOOM利用によるオンライン会議

決議事項：

第一号議案 2020年度事業報告書 承認の件

第二号議案 2020年度決算書 承認の件

第三号議案 第10回評議員会招集 承認の件

第四号議案 2021年度学生委員会委員の決定 承認の件

報告事項：

理事及び監事の選任と退任の報告

代表理事及び業務執行理事の職務の執行状況について

その他

②第23回理事会

時 期：2021年6月24日(木)

方 法：ZOOM利用によるオンライン会議

決議事項：

第一号議案 定款第26条第2項に基づく常務理事の選定

第二号議案 役員の報酬について

③第24回理事会

時 期：2021年11月24日（水） 書面決議
方 法：一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条において
準用する同法第96条の規定に基づく決議の省略に基づく理事会
提案事項：
第一号議案 決議の省略による評議員会について

④第25回理事会

時 期：2021年12月22日（水） 書面決議
方 法：一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条において
準用する同法第96条の規定に基づく決議の省略に基づく理事会
提案事項：
第一号議案 2022年度 事業計画書並びに収支予算書 承認の件
第二号議案 変更認定申請 承認の件
第三号議案 決議の省略による評議員会について

⑤第26回理事会

時 期：2022年3月10日（木）
方 法：ZOOM利用によるオンライン会議
決議事項：
第一号議案 2022年度 事業計画書及び収支予算書並びに資金調達及び設
備投資の見込み 承認の件
第二号議案 日本財団ボランティアサポートセンターの一部事業の譲り受けの
件
第三号議案 諸規程の改定の件
第四号議案 役員賠償責任保険の加入の件
報告事項：
日本財団からの内示について
代表理事及び業務執行理事の職務の執行状況について
2021年度 学生委員会の報告について

(2) 評議員会

①第10回評議員会

時 期：2021年6月21日（月）
方 法：ZOOM利用によるオンライン会議
報告事項：
監事監査報告

2020年度事業報告

審議事項：

第一号議案 議長の選任

第二号議案 2020年度決算書 承認の件

第三号議案 理事、監事の選任について

②第11回評議員会

時 期：2021年12月9日（木） 書面決議

方 法：一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条において
準用する同法第96条の規定に基づく決議の省略に基づく評議員会

決議事項：

第一号議案 定款の一部変更 承認の件

③第12回評議員会

時 期：2021年12月23日（木） 書面決議

方 法：一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条において
準用する同法第96条の規定に基づく決議の省略に基づく評議員会

決議事項：

第一号議案 定款変更（停止条件付） 承認の件

(3) 学生委員会

学生ボランティア支援に際し、不可欠なのは学生自身の視点である。その視点から学生ボランティアのニーズを吸い上げる目的で、2021年度学生委員会を発足させた委員は10名で、センター実習生、地方大学在籍者、留学生、センター事業参加者、ボランティア活動に従事している者などが選任された。今年度は、オンラインにて委員会を2回開催し、第26回理事会において、委員からの提案及び意見について報告がなされた。

①第1回委員会

日 時：2021年6月19日（土）

方 法：ZOOM利用によるオンライン会議

参 加 者：委員6名、職員1名

議事要旨：委員へのセンター設立趣旨・事業概要説明と質疑応答

各委員より自己紹介（ボランティア活動を行う動機を含む）

②第2回委員会

日 時：2021年8月15日（日）

方 法：ZOOM利用によるオンライン会議

参加者：委員10名、職員3名

議事要旨：オンラインセミナーやボランティア派遣等を実施する上で、どういったコミュニケーションにより多くの学生を惹きつけるか。

4. 規程の制定等

(1) 規程の一部改正

(規1号) 職員就業規則

(規2号) 組織規程

(規4号) 旅費規程

(規5号) 経理規程

(規10号) 職員給与規程

(規12号) 監事監査規程

(規15号) 特定個人情報等の適正な取扱いに関する基本方針

(規16号) 特定個人情報等取扱規程

(規17号) 寄付金等取扱規程

(規18号) 職員退職手当支給規程

(規19号) 専決基準規程

(2) 規程の新設

(規20号) 文書管理規程

(規21号) 個人情報保護方針

(規22号) 個人情報保護規程

(規23号) 在宅勤務規程

(3) 規定の廃止

(規3号) 文書規程

(規6号) 契約規程

5. 届出・登記事項

(1) 内閣府へ提出

- ・役員変更届（理事の就任、退任）
- ・「2020年度事業報告」の提出
- ・名称の変更届
- ・変更認定申請

※これまで、学生を対象にボランティア活動の支援を行ってきたが、センターの事業を拡大し、学生だけではなく幅広い世代に対してボランティア

活動の支援を行うこととするため、2021年12月23日に変更認定申請を内閣府に提出し、2022年3月30日付けの認定書を、2022年3月31日に受理した。

- ・「2022年度事業計画書等」の提出

(2) 登記事項

- ・役員変更登記（2021年7月）
- ・役員変更登記（2021年11月）
- ・名称変更登記（2021年12月）
- ・定款変更登記（2022年3月）

6. 事務局

(1) 機構

2022年3月31日現在における事務局の機構は、別表4（33頁）のとおり、2部である。

(2) 人員

2021年度は、職員に異動はなく、2022年3月31日現在における職員は1名、契約職員は4名である。

Ⅲ. 事業の実施状況

【公益目的事業】

学生が行うボランティア活動を支援するため、資金協力、スキルアップセミナー、ボランティア派遣、教育活動支援など幅広い事業を実施した。なお、各事業の報告については、次のとおりである。

1. 大学等連携ボランティア関連講座

本事業は、大学の教育力を広く拡充し、学生のボランティア活動及び社会参画の推進を図る講座やプログラムを大学等と連携して実施した。これは、学生時代のボランティア活動をはじめとする社会参画が、全人的な人間成長に寄与するというセンター設立当初よりの考え方に基づいており、教育改革に積極的な大学やその関係機関と協力協定を締結するなど、協力関係を構築した上で進めている。

協定締結について

2022年3月31日現在で大学59校、短期大学2校、大学連携組織2団体と協定を締結している。なお、大学コンソーシアムひょうご神戸には大学等38校（関西国際大学とは単独協定を結んでいるため数には含めない）、東部地域大学連携には大学3校が加盟しており、2021年度までで合計102校との協力関係が構築された。また、2021年度の大学等との新規協定締結は、大学5校、短期大学1校であった。

(五十音順)

No	大学名/組織名	締結先	締結日	新規
1	愛知淑徳大学	コミュニティコラボレーションセンター	2014年 10月 1日	
2	青山学院大学	ボランティアセンター	2017年 4月 1日	
3	亜細亜大学	全学	2017年 5月 23日	
4	茨城大学	全学	2019年 11月 1日	
5	岩手大学	三陸復興・地域創生推進機構	2017年 10月 31日	
6	追手門学院大学	全学	2013年 3月 1日	
7	大阪大学	大学院ビジネスエンジニアリング専攻	2012年 11月 1日	
8	大阪公立大学	ボランティアセンター V-station	2011年 5月 1日	

No	大学名/組織名	締結先	締結日	新規
9	岡山大学	全学	2018年 7月 17日	
10	お茶の水女子大学	全学	2017年 2月 23日	
11	嘉悦大学	全学	2011年 7月 1日	
12	関西国際大学	全学	2017年 4月 1日	
13	神田外語大学	全学	2018年 2月 1日	
14	北九州市立大学	地域共生教育センター	2021年 10月 20日	○
15	九州国際大学	全学	2021年 7月 1日	○
16	京都産業大学	全学	2017年 4月 1日	
17	京都大学	大学院総合生存学館	2022年 3月 1日	○
18	熊本学園大学	ボランティアセンター	2017年 4月 1日	
19	熊本大学	熊本創生推進機構	2019年 8月 1日	
20	公立鳥取環境大学	全学	2018年 5月 1日	
21	埼玉工業大学	全学	2018年 4月 1日	
22	順天堂大学	スポーツ健康科学部 さくらキャンパス学生部	2011年 2月 1日	
23	聖学院大学	全学	2017年 12月 1日	
24	成蹊大学	ボランティア 支援センター	2017年 4月 1日	
25	星槎大学	全学	2017年 4月 1日	
26	聖心女子大学	全学	2014年 3月 1日	
27	摂南大学	全学	2017年 4月 1日	
28	大正大学	全学	2017年 7月 1日	

No	大学名/組織名	締結先	締結日	新規
29	高崎健康福祉大学	全学	2017年 4月 1日	
30	千葉大学	国際教養学部	2012年 3月 1日	
31	中央大学	学生部	2014年 3月 1日	
32	津田塾大学	学外学修センター	2017年 4月 1日	
33	東京外国語大学	全学	2020年 11月 17日	
34	東京海洋大学	全学	2012年 5月 1日	
35	東北大学	高度教養教育・ 学生支援機構	2017年 12月 21日	
36	東北福祉大学	総合マネジメント学部	2012年 4月 1日	
37	東洋大学	全学	2017年 4月 1日	
38	徳島文理大学	全学	2017年 10月 1日	
39	常葉大学	全学	2019年 12月 16日	
40	鳥取大学	全学	2018年 5月 1日	
41	長崎大学	全学	2019年 4月 1日	
42	新潟青陵大学	全学	2017年 7月 1日	
43	新潟青陵大学 短期大学部	全学	2017年 7月 1日	
44	日本文理大学	全学	2012年 4月 1日	
45	浜松学院大学	全学	2021年 4月 1日	○
46	東日本国際大学	全学	2020年 3月 10日	
47	弘前医療福祉大学	全学	2022年 3月 4日	○
48	弘前医療福祉大学	全学	2022年 3月 4日	○

No	大学名/組織名	締結先	締結日	新規
	短期大学部			
49	広島修道大学	全学	2017年 12月 6日	
50	福山市立大学	全学	2015年 9月 1日	
51	法政大学	ボランティアセンター	2017年 4月 1日	
52	北海道教育大学	函館校	2020年 8月 18日	
53	松本大学	全学	2017年 2月 1日	
54	明治学院大学	ボランティアセンター	2011年 12月 1日	
55	明治大学	ボランティアセンター	2015年 12月 11日	
56	立教大学	総長室社会連携課	2015年 7月 1日	
57	立正大学	社会福祉学部	2017年 11月 1日	
58	了徳寺大学	全学	2013年 11月 1日	
59	麗澤大学	全学	2011年 8月 1日	
60	和歌山大学	紀伊半島価値共創基幹	2020年 12月 1日	
61	早稲田大学	平山郁夫記念 ボランティアセンター	2010年 6月 1日	
62	大学コンソーシアム ひょうご神戸	コンソーシアム	2015年 4月 1日	
63	東部地域大学連携	九州産業大学 福岡工業大学 学術支援機構社会連携室 福岡女子大学 地域連携センター	2020年 10月 1日	

(1) 学内中心の講座・プログラム

大学内を中心としたボランティアについて学ぶ単位科目や課外講座などの開発や実施を行った。

① 実施大学：追手門学院大学、熊本学園大学、聖学院大学、聖心女子大学、中央大学、千葉大学、東北大学、立教大学、了徳寺大学

② ボランティア活動の基礎知識を学ぶ講座

ア. 聖学院大学

講義名：ボランティア体験の言語化技法と実践

学 期：前期

内 容：受講者自身の参加したボランティア体験の振り返り方を学び、言語化技法としてのプレゼンテーションと文章化を実践した。（一部オンラインで実施）

講義名：釜石学

学 期：前期

内 容：阪神淡路大震災から東日本大震災以降の現在に至るまでの、震災とボランティアについての講義を行った。（オンラインでの実施）

イ. 聖心女子大学

講義名：ボランティア体験の振り返り

学 期：後期

内 容：自分がこれまでに行ったボランティア活動・社会貢献活動を振り返り、またその活動を他人に伝えることの意味を考えて言語化を行った。（オンラインでの実施）

ウ. 千葉大学

講義名：学生ボランティア実践入門

学 期：第4ターム

内 容：ボランティア活動の基礎知識について、外国にルーツをもつ人々を取り巻く社会的な環境を題材に学び、千葉県内での実習を実施した。

エ. 立教大学

講義名：ボランティア論

学 期：前期

内 容：ゲストスピーカーを迎えて、実際のボランティアのニーズ、活動を生かすための仕組み、ボランティア自身の気づき、活動が与えるインパクトがどのようにリンクし合っていくのかを、学生が具体的にイメージしながら考察できるような授業を行った。（オンラインでの実施）

オ. 了徳寺大学

講 義 名：人間関係実践演習 I

学 期：前期

実施日程：2021年5月7日(金)、5月12日(水)

内 容：ボランティアの概説、学生ボランティアの現場やキャリアへのつながりについて、他大学の学生や学生時代にボランティアに携わった非営利セクターの若手社会人もゲストを迎えてセンター職員が講義を行った。（オンラインでの実施）

③ 特定のテーマでのボランティア活動や社会課題を考える講座

ア. 追手門学院大学

講 義 名：現代社会リサーチ演習 1 B

内 容：社会問題の一例としてのハンセン病問題に関するゲストによる講義をおこなった。（オンラインでの実施）

実施日程/テーマ：2021年5月28日(金)/ハンセン病回復者の声を聞く

6月18日(金)/ハンセン病療養所における
集合的実践

イ. 熊本学園大学

講 義 名：ボランティアスキルアップセミナー

実施日程：2021年12月8日(水)

内 容：災害ボランティアへの参加の仕方、装備と持ち物、事前の準備、災害ボランティア当日の流れなどをセンター職員が講義を行った。（オンラインでの実施）

ウ. 聖心女子大学

講 義 名：グローバル共生研究V（災害と人間－3. 11以後の社会と文化－）

学 期：前期

内 容：東日本大震災をはじめとする国内外の災害が人の心や社会に与える影響を考える講義を行った。

事業名：学生団体による連続勉強会

内容：社会課題に取り組む活動を知り、自身でできることを考える連続勉強会を、学生団体が企画し、実施した。

実施日程/テーマ： 2021年6月 11日(金)/フェアトレード

8月 1日(土)/コロナ禍で深刻化するゴミ
問題

エ. 中央大学

事業名：オンライン 連続ボランティア講座

内容：社会課題に取り組む活動を知り、自分のキャリアにどのようにつながっていくかを考えるきっかけとするための連続講座を実施した。

実施日程/テーマ： 2021年6月 11日(金)/「公務員に求められる力」
とボランティア活動

6月 25日(金)/ 企業は社会課題をどう克服
しようとしているか

講義名：現代社会分析Ⅱ

学 期：後期

内 容：社会問題を法の観点から議論するための題材として東日本大震災を扱い、「法の意味・はたらき・課題」を考えるため、宮城県気仙沼市でのフィールドワークを行った。

事業名：「力を引き出すワークショップ」シリーズ

内 容：主にボランティア団体の代表を対象として、チームをまとめていくために必要な力を学ぶ連続講座を実施した。

実施日程/テーマ： 2021年7月 10日(土)/ アサーティブな自己表現
(聞き方、話し方)

9月 25日(土)/ やる気を引き出す、巻き込
む

12月 27日(月)/ 経験を次に活かす

オ. 東北大学

講義名：被災地復興の課題に取り組む

学 期：通年

内 容：東日本大震災被災地でのボランティア活動に従事する学生の増加を目的として、津波被災地や原発事故被災地を対象とした正課科目を開講

し、原発事故被災地、津波被災地で課題解決に向けた取り組みを行う支援者をゲストとして招き講義を行った。また、宮城県内、福島県へのフィールドワークも実施した。

講義名：共生社会に向けたボランティア活動

学 期：前期

内 容：「共生社会」に向けたボランティア活動を主なテーマとし、義務教育を実質的に受けていない方の学び直しの支援や生活困窮に直面する方の食糧支援のボランティア活動を通して、東日本大震災の経験から得た支援などのテーマについてゲストを招いた講義を行った。

講義名：東日本大震災の経験を海外の学生に伝える

実施日程：2021年7月15日(木)～21日(水)

内 容：東北大学の学生と、連携大学であるアメリカ ベイラー大学の学生が協力して、これまで蓄積されている被災者の方々のインタビュー下校を英訳した。その過程で震災について学び、今後の海外の人々に向けた発信となる教材を作成した。(オンラインでの実施)

事業名：災害ボランティア研修会

実施日程：2021年7月25日(日)

内 容：水害発生時に、コロナ禍との「複合災害」となってしまう中での支援のあり方を考える研修会を実施した。(オンラインでの実施)

講義名：東日本大震災からみる現代社会

学 期：後期

内 容：「震災と避難の課題」「防災と震災伝承の課題」「震災遺構と語り部」「原発事故とそれ以降の地域復興の現状と課題」「東日本大震災と子ども教育と生活の課題」などのテーマについてゲストを招いた講義を行った。

事業名：課外・ボランティア活動研修会

内 容：主体的に活動する学生ボランティアリーダー育成のため、活動中に起こりうるリスクなどを考える研修を、ゲストを招き行った。

実施日程/テーマ： 2021年11月30日(火)/ ストレスケア

12月21日(火)/ ハラスメント防止

2022年 2月15日(火)/ 活動づくり、団体運営

事業名：東北大学学生ボランティア支援10年検証シンポジウム

実施日程：2021年12月5日(日)

内容：東日本大震災発災当時から始まった東北大学のボランティア活動の支援について、10年を振り返り、多角的視点から取り組みの意義や課題、今後の展望について考えるシンポジウムを実施した。

(2) 学外中心の講座・プログラム

大学外を中心としたボランティア活動の実施や社会課題の現地調査を行い、単位科目もしくは課外活動として実施した。

① 実施大学：愛知淑徳大学、熊本大学、千葉大学、中央大学、東北大学、北海道教育大学函館校、和歌山大学、大学コンソーシアムひょうご神戸、東部地域大学連携

② 授業やゼミでの実習やボランティアセンターなどが主催したプログラム

ア. 愛知淑徳大学

事業名：にじいろ☆キャンプ

活動日程：2021年11月13日(土)、11月14日(日)

活動場所：愛知県豊田市

内容：外国にルーツを持つ中高生を対象に、将来を考えるきっかけを提供するキャンプを行った。

イ. 熊本大学

事業名：熊本転入ママの会学生サポーター

内容：11月に行われたオンラインイベントの補助などを行った。

ウ. 千葉大学

講義名：持続的地域貢献活動実習

活動日程：2021年6月5日(土)、7月31日(土)

活動場所：千葉県鴨川市

内容：千葉県鴨川市をフィールドにし、食を生かした地域資源の開発などをトピックにして人口減少地区における課題解決について考える実習を実施した。なお、年度内に4回の実習を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、2回は中止とした。

エ. 北海道教育大学函館校

事業名：地域政策ボランティア実習

活動日程：2021年9月5日(日)～9月19日(日)

活動場所：北海道苫小牧市、勇払郡厚真町

内 容：2018年9月の北海道胆振東部地震被害が大きかった地域にて、自然体験、子ども向け企画の補助などを行った。

講 義 名：地域政策ボランティア実習

活動日程：2021年9月5日(日)～9月25日(土)

活動場所：北海道苫小牧市、勇払郡厚真町

内 容：農業体験を中心として地域振興、地域づくり支援の補助などを行った。

オ. 東部地域大学連携

事 業 名：九州産業大学・農業ボランティア

活動日程：2021年4月10日(土)

活動場所：福岡県大牟田市

内 容：令和2年7月豪雨の被害が大きかった地域にて農地復旧を行った。

カ. 和歌山大学

事 業 名：給水支援ボランティア

活動日程：2021年10月5日(火)～10月8日(金)

活動場所：和歌山県和歌山市

内 容：大学周辺を含む和歌山市北部が大規模な断水となり、重い水を運べない年配の方や水を入れる容器が無い方々向けに、水を配る活動を行った。

③ 企画をつくり上げ、実施する活動

ア. 大学コンソーシアムひょうご神戸

事 業 名：「学生災害ボランティア・ネットワーク事業」学生スタッフ研修

活動日程：2021年7月～9月

内 容：阪神淡路大震災や東日本大震災の復旧期や仮設住宅においてボランティアがどのような活動をしたのかを学び、現在どのような活動をする必要があるのかを考える研修を複数回にわたって実施した。(オンラインでの実施)

事 業 名：「学生災害ボランティア・ネットワーク事業」現地ヒアリング

活動日程：2021年9月～10月

内 容：オンラインにて、兵庫の学生と熊本県の学生や令和2年7月豪雨で被害のあった人吉市や八代市の方々がつながり、現地のニーズなどを知り、活動を考えていった。（オンラインでの実施）

事業名：「学生災害ボランティア・ネットワーク事業」熊本チーム活動

活動日程：2022年3月

内 容：コロナ禍により現地での活動を中止、人吉について学んだことなどを冊子と人吉の名物などを消しゴムはんこで作成して、訪問予定であった2か所の仮設住宅の方へお送りした。

④ 学生主体のボランティア活動の促進

ア. 中央大学

事業名：被災者が伝える、西日本豪雨災害
～大切な人を守るための備えとは～

実施日程：2021年6月12日(土)

内 容：2018年の西日本豪雨で被災され、その後復興プロジェクトに携わるゲストをお迎えし、「水害への備え」についてのお話を伺い、水害を「自分事」として考えるきっかけとするオンライン講座を、ボランティアセンター公認学生団体「ふらっと真備」「チーム防災」の学生が中心となり実施した。

事業名：りこボラ！クリーン作戦

活動日程：2021年11月13日(土)、12月12日(日)

活動場所：東京都文京区

内 容：後樂園キャンパス周辺のゴミ拾い活動を実施した。

事業名：西日本豪雨被災地活動

活動日程：2021年12月17日(金)～19日(日)、2022年3月20日(日)～23日(水)

活動場所：岡山県倉敷市

内 容：西日本豪雨で大きな被害を受けた岡山県倉敷市の仮設住宅にて、写真洗浄や子ども支援プロジェクトを、ボランティアセンター公認学生団体「ふらっと真備」が実施した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で現地での活動ができていなかったが、前年度はオンラインにて交流を継続しており、約2年ぶりの現地活動となった。

イ. 東北大学

事業名：南三陸ツアー

活動日程：2021年7月28日(水)

活動場所：宮城県本吉郡南三陸町

内容：南三陸町の被災状況などを学ぶ機会を設けると共に、コロナ収束後に留学生を交えた震災伝承ツアーを行うための足がかりとすることを目的として、ツアーを実施した。

事業名：学校防災ツアー

活動日程/活動場所：

2021年10月3日(日) 宮城県仙台市、石巻市

2022年1月8日(土)～9日(日) 宮城県気仙沼市、
岩手県陸前高田市、釜石市

内容：東日本大震災に対する理解を深め、震災の記憶の風化が問題となりつつあるなかで、震災伝承活動を活性化させるため、ツアーを実施した。

- ⑤ 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、実施方法や実施の有無などについて協議をしたが、実施までに至らなかった事業

ア. 追手門学院大学

事業名：東北支援プロジェクト～普代村・村づくり支援プログラム～

イ. 聖心女子大学

講義名：グローバル共生研究Ⅶ（地域コミュニティにおける課題解決プロジェクト）

事業名：SHOC projectスタディツアー

事業名：USHひとづくり・まちづくりボランティア in 南相馬

ウ. 東北大学

事業名：被災地アンバサダー ベイラー大学とのプロジェクト

エ. 東北福祉大学

講義名：まちづくり論

オ. 明治大学

事業名：アメリカンフットボール部によるボランティア活動の実施

カ. 早稲田大学

事業名：米式蹴球部によるボランティア活動の実施

(3) オンラインでの活動実施

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、現地での活動が実施できない中、現地とのつながりを保ち続けるため、オンラインもしくは遠隔にて活動を実施した。

① 実施大学：青山学院大学、神田外語大学、聖学院大学、聖心女子大学、東京外国語大学、明治大学

② オンラインもしくは遠隔による活動

ア. 青山学院大学

事業名：学生ボランティア合同説明会

実施日程：2021年4月10日（土）

内容：センターからオンラインツール Remo を貸与して、12団体によるリレー形式での活動紹介、個別相談会を実施した。

事業名：動物愛護団体きすあに講演会

実施日程：2021年8月12日(木)、2022年3月12日(土)、3月15日(火)

内容：アニマルウェルフェア向上の意識を高めてもらうために、映画「犬部」の主人公のモデルである獣医師と脚本家をゲストにした大規模なイベントや畜産の現場に従事する方に講演いただいた。

イ. 神田外語大学

事業名：はじめの0.1歩セミナー

実施日程：2021年5月21日(金)

内容：コロナ禍で活動の機会が減っているボランティアに興味を持つ学生向けに様々なテーマの活動の紹介を行った。

事業名：オンライン版「あすチャレ! Academy」

実施日程：2021年5月29日(土)

内容：日本財団パラリンピックサポートセンターによる障がい者やパラスポーツへの理解を深める体験型の講座を実施した。

ウ. 聖学院大学

事業名：直接会わなくてもできる!「楽しい活動のつくりかた」

実施日程：2021年11月15日(月)、11月22日(月)

内 容：対面ではないと活動できないと諦めているサークルや部活動の運営メンバーを対象に、事例紹介や活動するコツを学んだ。

エ. 聖心女子大学

事業名：Ecoマスクプロジェクト

実施日程：2021年5月～2022年3月

内 容：学生が作製する布マスク頒布する際に献金を受け取り、かねてより学生のボランティア活動の受け入れをしている福島県南相馬市の被災地復興支援のために寄付をするプロジェクト。3月6日(日)には、現地の方々を招き活動報告会を兼ねたイベントをオンラインにて実施した。

事業名：お手紙プロジェクト

実施日程：2021年8月～2022年3月

内 容：以前より活動先としているカリタス南相馬で実施している月1回の食材支援の際に、手作りをした冊子を配布する。冊子には返信用はがきを添付し、双方向のコミュニケーションとなることを目指す活動。上記の3月6日(日)のイベントでも活動を報告した。

事業名：SHOC project オンライン講演会

実施日程：2022年3月14日(月)

内 容：例年は福島県いわき市へスタディツアーに行っていたが、2020年度からは現地に行く活動が実施できていない。代わりに現地で活動をしている団体の方にお話を伺う勉強会をオンラインにて実施した。

オ. 東京外国語大学

講義名：震災・洪水の被災地を学ぶ～福島でのオンラインフィールドワーク～

活動日程：2022年2月13日(日)～15日(火)

内 容：福島の影響を学ぶため、現地の方々と学生とをオンラインで接続し実施した。現地の方へ直接インタビューすることで、震災後11年の現地の状況を理解し学習した。インタビュー内容は「聞き書き」という手法により一つの記事にまとめることで、現地の方々の置かれた状況、考え方等の理解の深化を促した。

カ. 明治大学

事業名：オンライン版「あすチャレ! Academy」

実施日程：2021年5月13日(木)

内 容：日本財団パラリンピックサポートセンターによる障がい者やパラスポーツへの理解を深める体験型の講座を実施した。

事業名：オンラインボランティアセンター

実施日程：通年 ※緊急事態宣言中は平日毎日、それ以外は週1，2回程度の実施

内 容：例年、各キャンパスにて開所しているボランティアセンターを、オンライン上にて、センターのRemoを使用して開所した。

(4) 協定締結大学の教職員を対象とした勉強会の実施

協定締結大学の取り組みや事例を互いに学びあい、活性化するため、協定締結大学の教職員を対象とした勉強会を実施した。

① テーマ：コロナ禍での対面活動

実施日程：2021年11月11日(木) 10:00～12:00

内 容：感染の不安が全く消えたわけではない現在、どのような対面活動が可能なのかを中央大学ボランティアセンター、日本財団ボランティアセンターの事例から考え、意見交換を行った。

参加者数：22名

② テーマ：災害発生時、大学ボランティアセンターはどうあるべきか、大学ボランティアセンターに何を求めるか

実施日程：2022年3月7日(月) 15:00～17:00

内 容：大学の所在地にて大きな災害が発生した際に、大学としてはキャンパスを開放する・施設を提供する、などという対応が大学としてなされる事例があるが、それに加えて、大学がもつ大きな力である、学生ボランティアの力を活用するための大学ボランティアセンターの役割や、平時にどのような備えをしておく必要があるかについて、災害支援団体の職員、東日本大震災の際にボランティアを受け入れた経験がある石巻専修大学の職員より学ぶ勉強会を実施した。

参加者数：87名

2. 学生ボランティア派遣

本事業は、学生が社会や世界で起きている問題を「他人事」から「自分事」として捉えるようになり、行動を起こしていくための機会を提供した。派遣先の選定については、自然災害による被災地はもちろんのこと、これまで学生ボランティアのニーズがあった地域とし、オンラインで繋ぐ形式で実施した。実施にあたっては、必ずオリ

エンターションと振り返りの時間を設け、参加した学生が学びを深められるような機会を提供した。

(1) チーム「ながぐつ」プロジェクト

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、現地での活動が実施できない中、現地とのつながりを保ち続けるため、オンラインも駆使し実施した。

① オンライン版チーム「ながぐつ」プロジェクト福島

2013年から現地での活動を続けてきた福島県いわき市での活動は、コロナ禍ではオンラインでの活動を続けることとした。現地の方々とも相談し、チーム「ながぐつ」プロジェクト福島のオンライン版として、学生の学びを深め、学生と現地とのつながりを保ち続けるための機会を提供した。

活動内容としては、震災、台風と被害を受けた現地の方から、発災当時から現在までの様子や、ご自身が行っている支援活動の内容をお話いただいた。

また、福島県における活動を始めた当初から継続している農業支援先の農家の方からも、発災当時から現在までの様子、風評被害の経験等をお話しいただいた。参加者が農家の方に対しオンラインでできる支援として、伺ったお話や取り扱っている商品を、SNS発信を通して広めていくという活動を行った。

<活動内容>

日程	内容	
◆1日目◆		
16:00~17:00	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・今回の趣旨 ・被害状況などの概要説明 ・ゲスト紹介
17:00~18:30	講和	<ul style="list-style-type: none"> ・台風19号やコロナ、震災等々について ・随時質問 ・感想共有
18:30~19:30	夕食の準備	
19:30~20:30	交流会	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・各自、福島の食材を使用して準備したご飯を食べながら交流
◆2日目◆		
9:00~11:30	活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストのお話 ・感想&質疑応答 ・商品の説明 ・実食 ・発信内容の考案 ・発表 ・感想共有
11:30~12:00	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート ・振り返り

<活動状況>

回	活動日程	参加者数	大学数
1	6月26日(土)～6月27日(日)	10	10
2	7月10日(土)～7月11日(日)	12	12
3	8月9日(月)～8月10日(火)	20	16
4	8月26日(木)～8月27日(金)	21	21

2021年度参加者数：63名 参加者所属大学総数：45大学

② チーム「ながぐつ」プロジェクト福島

10月に緊急事態宣言等が一斉に解除されたタイミングで、企画、調整し、実施に至った。

活動内容としては、福島県における活動を始めた当初から継続している農業支援を中心に行った。また、震災や原発事故についてメディアを通してではなく、自分の身をもって確かめたい、知りたいという思いを持った学生が多いことから、「震災について学ぶ」プログラムとして、未だ避難生活を余儀なくされている双葉郡の東日本大震災・原子力災害伝承館へ視察に行った。

<活動状況>

回	活動日程	参加者数	大学数	
1	10月29日(金)～10月31日(日)	18	14	農業支援 被災地視察/講話

③ チーム「ながぐつ」プロジェクト緊急災害支援

ア. 軽石除去ボランティア in 与論島

海底火山噴火の影響により漂着した軽石の除去活動を、観光業、漁業、その他島民の生活に大きく被害を受けた鹿児島県与論島にて行った。

<活動状況>

回	活動日程	参加者数	大学数	
1	12月15日(水)～12月19日(日)	10	9	漂着軽石の除去作業
2	12月19日(日)～12月23日(木)	10	7	漂着軽石の除去作業

(2) プラチナ未来人財育成塾チューターへの支援

プラチナ未来人財育成塾では、プラチナ社会実現に寄与する未来のリーダー育成を目的として、全国の中学生に対してオンラインにて講義とワークが行われた。またプラチナ森の学校きくちでは、対面式で開催された。

① プラチナ未来人財育成塾@オンライン事前研修

実施日程：2021年7月～8月

方 法：オンライン

参加者：13名

所属大学数：11大学

内 容：育成塾の基礎知識獲得と予行演習の実施、当日のシミュレーション

② プラチナ未来人財育成塾@オンライン

活動日程：2021年8月10日(火)～13日(金)

方 法：オンライン

参加者：13名

所属大学数：11大学

内 容：グループワークの進行

3. セミナー／シンポジウム

(1) PR カコンテスト (V-1) の開催

学生ボランティアの社会への発信力を育成するために、10回の連続講座を実施した。3回目の講座終了後、参加者一人ひとりが、関心のある社会課題をピックアップし、またその社会課題のために活動する人/団体にインタビューを行なった。その内容を綴った文章の中から、優秀な作品を表彰した。

講座実施期間：2021年6月16日(水)～12月28日(火)

講師：大泉大介氏(河北新報社記者)

審査日：2022年1月20日(木)

審査員：大泉大介氏(河北新報社記者)

藤原愛氏(NPO法人NICE海外短期派遣事業部長)

審査結果：グランプリ 中野ちさと氏(上智大学文学部2年)

優秀賞 柏夏紀氏(上智大学文学部3年)

山内彩愛氏(横浜国立大学都市科学部4年)

(2) ボランティア・シンポジウムの開催

全国でボランティアに取り組む学生や関心のある学生が、これまでのように、全国の学生が一堂に会して対面で行うことが難しい状況のなか、オンラインで複

数回にわたって大学の地域・専門を超えて学びあい、ネットワークづくりにつながるシンポジウムを実施した。

① 学生を対象としたテーマ別企画

ア. 「niji-depot」と考える私たちのレインボーな世界ワークショップ

開催日：2021年6月27日(日)

方法：オンライン

参加者：21名

ゲスト：梅田道子氏、おおともかぐみこ氏（ともにniji-depot 共同代表）

内容：LGBTQ+をはじめとするセクシュアルマイノリティとAllyのための国内唯一のレインボーカラーアクセサリ&雑貨専門店「niji-depot」の歩みについて伺い、ジェンダー・セクシュアリティの問題・課題に何ができるのかなどをグループで考えた。

イ. 女子制服のストラックスから考える自分らしく過ごせる社会

開催日：2021年12月6日(月)

方法：オンライン

参加者：59名

ゲスト：澤埜 友梨香氏(菅公学生服株式会社カンコー学生工学研究所)
山口真紀氏(神戸学院大学講師)

内容：学校制服やそれを取り巻く状況が反映するジェンダーギャップについて、制服の現場とフェミニズムなどの学問の側面からも考えて、参加者一人ひとりがこれからどうすべきかをワークショップで考えた。

ウ. 学生の”うち”だからできるSDGs ～暮らし方と働き方～

開催日：2021年12月18日(土)

方法：オンライン

参加者：175名

ゲスト：須藤あまね氏(聖心女子大学3年/地方創生SDGsユースアンバサダー)、能條桃子氏(慶應義塾大学院修士1年/一般社団法人NO YOUTH NO JAPAN 代表理事)

内容：学生自身が取り組むことができるSDGsとは何なのか。暮らしへの取り入れ方をどうするかなど、現役学生であり活動も展開するゲストが参加者からの質問にも答えながら講演した。

エ. 学生（ボラ）のためのスタッフ研修～ボランティア興味ゼロの聞き手の共感を呼ぶプレゼンの仕方～

開催日：2022年2月24日(木)

方法：オンライン

参加者：24名

ゲスト：三輪開人氏(認定NPO法人 e-Education 代表)

内容：「いつも同じメンバーで活動していて広がりが無い」「新入生が入ってこない」そんな悩みを抱えている学生向けに、プレゼンについての講義とトレーニングを行った。

オ. 学生（ボラ）のためのスタッフ研修～活動経験とキャリアデザインを繋ぐ方法～

開催日：2022年3月3日(木)

方法：オンライン

参加者：40名

ゲスト：天野浩史氏(NPO法人 ESUNE 代表理事)、小野航汰氏(静岡県立大学卒、広告代理店勤務)、橋本空氏(法政大学卒、町田市地域活動サポートオフィス)、渡邊蛭都氏(東洋大学4年、NPO法人に内定)

内容：ボランティア・社会活動経験はキャリアデザインにどのように活かされるのか、学生時代にボランティア活動を経験した若手社会人とともに少人数グループでの話し合いなども行い考えた。

カ. 学生（ボラ）のためのスタッフ研修～コーディネート力を磨く～

開催日：2022年3月16日(水)

方法：オンライン

参加者：50名

内容：全体会と分科会を中心にボランティアセンターの学生スタッフなどのボランティアの関心が高い層に向けた研修やネットワーキングを行った。

全体会：ボランティアとアルバイトの違いに代表される、活動の無償性を考え講義やワークショップ、参加者の活動紹介、テーマ別の小グループでのセッションを行った。

ゲスト：高城芳之氏(NPO法人アクションポート横浜)、日比野勲氏(東洋大学ボランティア支援室)、竹内美佳子氏(法政大学2年、NPO法人国際ボランティア学生協会多摩クラブマネージャー)、山崎紗矢香氏(東洋大学2年、東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ)

分科会：それぞれテーマに沿ったグループワークを中心に行った。

- 1) オンラインのあたたかい場づくり
 ゲスト：芦澤弘子氏、川田虎男氏(ともに聖学院大学ボランティア活動支援センター、NPO法人ハンズオン埼玉)
- 2) ソーシャル企画づくりのコツ 社会に小さな変化をつくるための立案から広報まで
 ゲスト：天野浩史氏(NPO 法人 ESUNE 代表理事)

(3) 災害ボランティア養成セミナー

①災害ボランティア研修～入門編～

頻発する災害に対して、災害ボランティアへの参加の仕方、装備と持ち物、事前の準備、災害ボランティア当日の流れなど具体的で実践的な内容をグループワークも交えて考えていく研修を実施した。

開催日			参加人数
2021年	11月	11日(木)	21名
	11月	29日(月)	18名
	12月	3日(金)	25名
	12月	22日(水)	9名
2022年	1月	8日(土)	15名
	2月	9日(水)	6名
	2月	24日(木)	8名
	3月	8日(火)	10名
	3月	26日(土)	5名

参加者合計：117名

②災害ボランティア養成セミナー

開催日：2021年11月30日(火)、12月7日(火)、12月21日(火)

活動場所：和歌山信愛大学及びオンライン

参加者：45名

内容：学生ボランティアが災害発生直後に被災地で迅速に活動を行えるように、趣旨に賛同する大学と協働して実施した。阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震などでのボランティアについて取り上げた。

4. インターンプログラム

本事業は、学生目線からボランティアの支援を行うため、2021年度インターンを採用した。インターンはボランティア・シンポジウムやその他のセンター事業等の補助を行った。2021年度インターン修了者は、7名である。

① 活動期間：2021年4月1日(木)～2022年3月31日(木)

② 自主企画

ア. 「学生の貧困、社会に根付く差別」ワークショップ

開催日：2021年7月3日(土)

方法：オンライン

参加者：28名

内容：新宿NPOネットワーク協議会と共催で、コロナを経験することによって表面化した、自分の悩み、困りごと、社会の課題について、どのように向き合うべきなのかを学生だけでなく、社会人を含めて多世代で交流することに考えた。

イ. 「大学生の暗黒期」を考える

概要：コロナ禍で学生生活を送るインターンが、約一年かけて「学生の暗黒期」をテーマとして調査やイベントを実施した。誰しも経験する、「人生の目的が見つからない、何も思い通りにならず、自己嫌悪になる」時期を「暗黒期」と名付け、暗黒期を乗り越えて前向きに歩むには何が必要かを考えた。

<アンケート調査概要>

調査期間：2021年12月15日(水)～23日(木)

調査方法：インターネット調査

有効回答数：大学生479名

監修：山縣芽生氏(大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程2年)

<座談会概要>

実施日：2022年2月8日(火)

場所：オンライン

参加者：大学生6名

<イベント概要>

イベントタイトル：大学生が考えるコロナ禍の生活～暗黒期との付き合い方～

実施日：2022年2月17日(木)

場所：オンライン

参加者：30名

ゲスト：辰野まどか氏(一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)ファウンダー/代表理事)

5. 教育活動支援

教育活動支援は、学生の成長や高等教育機関にとっての教育効果を重視し、協力協定を締結していない大学の教職員、学生らと、年間を通じてボランティアプログラムを協働開発し実施する事業である。2021年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響のため事業の実施に至らなかった。

【その他センターの目的達成に必要な事業】

1. 情報発信

ボランティアに興味・関心を寄せる学生たちがホームページへ訪れるよう、ホームページを更新した。TOPページのメインビジュアルを大きく惹きつける画像に変更し、新たに「ジャーナル」を導入。

また、メールマガジンを定期的に発信するようにし、内容も学生向けと大学関係者向けで変える工夫をした。学生にはHTML形式で画像等を利用しインパクトをつけ、大学関係者には学生に転送しやすいようシンプルな形式で構成した。

別表 1

役員名簿

(2022年3月31日現在)

役職	氏名	現職
代表理事 (会長)	小宮山 宏	株式会社三菱総合研究所 理事長
常務理事	小西 龍治	立命館アジア太平洋大学 客員教授
〃	沢渡 一登	公益財団法人日本財団ボランティアセンター
理事	工藤 健夫	一般社団法人S o L a B o 代表理事
〃	栗田 充治	亜細亜大学 名誉教授
〃	西尾 雄志	近畿大学 准教授
〃	二宮 雅也	文教大学 准教授
〃	吉村 充功	日本文理大学 教授
〃	渡邊 一馬	一般社団法人ワカツク 代表理事
監事	浅井 清澄	M o o r e 至誠監査法人 公認会計士
〃	鈴木 浩司	公益財団法人日本海事科学振興財団 常務理事

別表2

評 議 員 名 簿

(2022年3月31日現在)

氏 名	現 職
尾形 武寿	公益財団法人日本財団 理事長
清 水 潔	弁護士
松本 美奈	一般社団法人Qラボ 代表理事
村上 公一	早稲田大学 教授 早稲田大学系属早稲田実業学校 学校長

別表 3

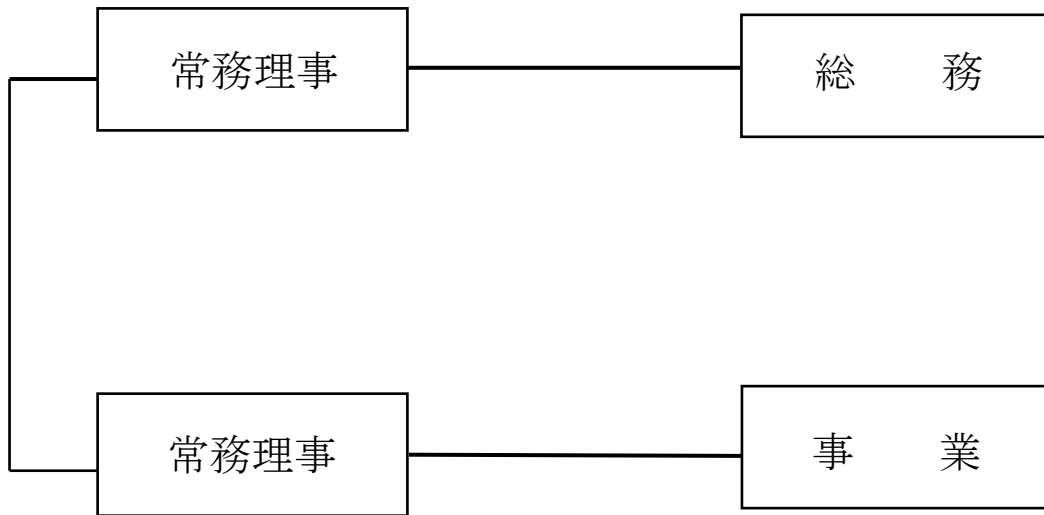
学 生 委 員 名 簿

(2022年3月31日現在)

氏 名	所 属
伊地知 里実	北九州市立大学 3年
遠藤 了	東京外国語大学 2年
大久保 由紀	広島修道大学 3年
大野 さくら	中央大学 2年
加藤 みなみ	新潟青陵大学 3年
立花 和奏	尚絅学院大学 2年
玉之内 菖	聖学院大学 4年
永田 侑大	芦屋大学 修士2年
パキニー スー	東京外国語大学 2年
水野 有紗	日本女子大学 2年

別表 4

事務局機構図



2021年度事業報告 附属明細書

2021年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人法に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2022年6月

公益財団法人

日本財団ボランティアセンター